

## 「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

平成 25 年 2 月 26 日（火）13:00～13:15

高崎河川国道事務所 1 階会議室

発言者：公述人 7

利根川・江戸川河川整備計画原案について意見を述べさせていただきます。沼田から参りました■■と申します。八ッ場ダムをストップさせる群馬の会に所属しております。私は、2007年に利根川河川整備計画について、公聴会においても意見を述べさせていただきました。そのときには、多くの方々が八ッ場ダム事業への反対意見を公述されたと思いますが、それらの意見は今回の河川整備計画に反映されているのでしょうか。疑問に思っています。聴きおくだけのことなのでしょうか。もしそうであれば、1997年に改正された河川法の趣旨に反することであり、民主的なやり方とはいえないと思います。今回の公聴会、きょう見させていただきましたけれど、やはり有識者会議の進め方に対しての疑問、八ッ場ダム事業はいらぬのではないかという意見が多く見受けられますが、このような公聴会、パブリックコメントで出された意見につきましては、ぜひ整備計画に入れていただきたいと思います。2006年から進められた利根川水系河川整備計画の策定作業では、利根川・江戸川、渡良瀬川、霞ヶ浦、鬼怒川・小貝川、中川・綾瀬川の5つの有識者会議がもたれました。今回はなぜ利根川・江戸川だけなのでしょうか。支川と本川は相互に関係しており、切り離して考えることはできないと思います。全国でもほとんどが水系全体の河川整備計画になっています。利根川・江戸川でも水系全体の河川計画にしたいと思っています。昨年の利根川・江戸川有識者会議につきましては、10月25日から9回にわたって会議が中止にされたと聞いております。常識では考えられないことですが、その理由はなんのでしょうか。有識者会議の中で、治水目標流量の17,000m<sup>3</sup>/sは過大であることやカスリーン台風洪水の氾濫区域図は、氾濫するはずのない丘陵や台地の上まで氾濫したことになることなどに対して、ねつ造ではないかと疑問が出されています。カスリーン台風洪水の実績流量は15,000m<sup>3</sup>/s程度であったのではないかと報道されています。このような議論がされている最中で、この有識者会議が中止になりまして、そして議論がまだこれから続くべきだと思うのに原案が出されているのではないかと思います。そのようなやり方に対しては、非常に大きな疑問を感じております。治水目標流量の議論をきちんと続け、情報もしっかり公開していただきたいです。河川整備計画原案の41ページから42ページにかけて「河川整備計画の目標流量を基準地点八斗島において17,000m<sup>3</sup>/sとし、このうち、河道では計画高水以下の水位で14,000m<sup>3</sup>/s程度を安全に流下させ、洪水による災害の発生の防止又は軽減を図る。」と書いてあります。その差3,000m<sup>3</sup>/sをダムで貯めて調節する案ですが八ッ場ダムの洪水調節量は600m<sup>3</sup>/s程度と見られています。残りの2,400m<sup>3</sup>/sについてはどのように考えられているのでしょうか。治水計画と事業内容との矛盾があるのではないのでしょうか。しっかりした議論を続けていただきたいです。八ッ場ダムの治水効果は下流に行くほど減退することが国交省の資料からも明らかになっています。治水の面から見て八ッ場ダムは必要ありません。また、首都圏の水需要は年々減っており、今後も人口減によりその傾向は続き、利水の面からも八ッ場ダムは必要がありません。このように利水・治水の必要性がなく、地質が脆弱で、地すべりを誘発する危険性が高い八ッ場ダムを利根川河川整備計画から削除していただきたいです。途中から発電もその目的に入っていますけれども、もう発電は既に行われております。この八ッ場ダムで発電

することにより、今までやってきた発電がかえって減るのではないかというそういう疑問も残っています。また、巨額な費用と時間がかかるスーパー堤防でなく、ハイブリット堤防技術を導入していただきたいです。この前起こりました中央高速道の笹子トンネルの崩落事故を見ても明らかなように、これからは今までに造ってきた社会資本の維持管理費、更新費が増大していくために新規の社会資本投資が困難な時代になっています。この計画原案に書かれている各事業の実施に必要な費用の見通しを示していただきたいです。地方自治法にもあるように、最小の経費で最大の効果を挙げるような実現性のある計画にしていきたいです。今までの一連のこのようなやり方を見てみると、八ッ場ダムを造らんがための計画原案のように思えてなりません。ほんとうに必要な事業を精査し、環境に配慮し、生物多様性を重視した利根川水系河川整備計画を策定していただきたいと心から思います。下久保ダムが造られましたけれども、その近くには地すべりが起きていまして、何百億円というお金がその対策に使われています。地すべり館がありますが、集水井が数多く造られ、ようやく地すべりを止めている状況です。この地すべりは下久保ダムと大きな関わりがあるというふうに思えます。奈良の大滝ダムでも大きな問題が起きています。そのような、また、今までに造られたダムでまったく利水に使われていないダムがあったり、ダムについてはたくさんの方の負の遺産を抱えているのではないかと思います。そのようなことを、きちんと考えていただきたい。そのようなことも含めて整備計画を作っていただきたいと思います。熊本ではダムの撤去が始まっており、自然が回復しています。コンクリートで造られたものは必ず寿命が来ます。自然を活かして英知を集めた河川整備計画を作っていただきたいと思います。暫定水利権について、不安定な水利権というふうに言われていますけれども、現実には、今取水されていて問題は起きていません。水利権の考え方自体を見直していただきたいと思います。このような意見をぜひ活かして、整備計画原案を環境に配慮した、多くの方々の意見も取り入れたものにしていただきたいと思います。以上です。

以上